
眠京志郎

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

眠京志郎

【Nコード】

N8351L

【作者名】

川崎ゆきお

【あらすじ】

眠るのが好きな男だった。

眠るのが好きな男だった。人生最大の楽しみは眠ることだという。一日の目的もそれで、メインは眠ることだった。

しかし一日中眠ってられない。いくら好きなことでも目が覚めると、もう眠ることはできない。

眠ることが好きなので、ひと以上に睡眠時間は長い。だから一度起きると夜までしっかり起きている。

目覚めはよい。寝入る時も好きだが、目覚める時も好きなのだ。しかし、一度起きてしまうと、寝るまでの時間が退屈だ。

京志郎はその間、なんでもいいから時間を持たせればよいと考えていた。目的が昼間にあるのではなく、夜にあった。

しかし夜の世界を楽しむには、単に眠るだけのことなので、これは誰にでもできることだ。

学校を出てからずっと同じ会社で勤めている。無遅刻で、ずる休みもない。

どんな仕事でもよかった。人生の目標とかは仕事の上にはなかった。気分よく眠れば、それでよいのだ。

さすがにそのことはずっと黙っていた。眠るのが目的とは、かなり妙な話で、誰でも手に入れられる目標だ。

京志郎は見た目は普通の男だが、わずかな人間にしか見せたことのないコレクションがある。それはパジャマで、洋服ダンスにずらりと吊るされている。

会社から戻るとパジャマに着替える。早く眠りたいためだが、寝るにはまだ時間がある。

徐々に眠くなるように、難しい本を読んだり、難解な映画を観る。よく分からなくてもいいのだ、眠気が催せば成功なのだ。

テレビや本はベッドで楽しむ。徐々に眠気がきたとき、流れが途切れないまま、寝入ってしまうように、立ち上がらなくてもよい

工夫がなされている。

眠っているときは、意識は落ちるが、夢を見る。それも楽しみの一つで、眠るのが好きなのも、夢を鑑賞できるからだ。

昼間あったことが、何かに置き換えられて上映される。

起きたとき、あれは昼間見たあれだな…とか、思い出すのも楽しみになっている。

京志郎は健康を維持している。そうでないと寝付きや目覚めも悪いからだ。

人には公言できない隠しネタがあるものだ。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8351/>

眠京志郎

2011年10月2日23時18分発行